

**JENESYS2016（派遣プログラム）**  
**（派遣国：インドネシア共和国 / 大学生）の記録**

**1. プログラム概要**

対日理解促進交流プログラム（JENESYS2016）の一環として、日本の大学生および引率者計23名がインドネシアへ派遣され、日本の経済、産学、歴史、自然、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、3月21日から3月29日までの8泊9日の日程でプログラムを実施しました。まず、参加者は、日本国大使館を表敬訪問し、日本とインドネシアの関係を、続いてODAサイトを視察し、ODAを通じた日本の位置づけと役割を理解しました。次に現地の大学2校と大学交流を実施し、参加者の在住地域であり、かつ、インドネシア人の間で人気の高い旅行先である北海道の魅力、文化、歴史についての発表や、北海道の盆踊りの実演など、様々な内容を織り交ぜながら工夫を凝らして披露しました。現地学生は、すでに日本をよく知っている日本語学習者が中心でしたが、この参加者の発表と実演は、彼らの興味と関心を十分に刺激するもので、大変好評でした。プログラムを通して多くの刺激を受けた参加者は、各々の気づきや体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、帰国前報告会では、派遣地での気づきと経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）を発表しました。

**【参加校・人数】**

北海道教育大学 札幌校、旭川校、函館校 23名

**【訪問国】**

インドネシア共和国

**2. 日程**

- 3月21日（火） 【簡易オリエンテーション】 成田空港より出発 — ジャカルタ着
- 3月22日（水） 【表敬訪問】 日本国大使館  
                   【視察】 ODA サイト視察「市民警察活動 (POLMAS) 全国展開プロジェクト」
- 3月23日（木） 【学校交流】 インドネシア大学
- 3月24日（金） 【学校交流】 パジャジャラン大学  
                   【ホームステイ】 ホストファミリーと対面
- 3月25日（土） 【ホームステイ】 【伝統文化体験】 サウン・アンクルン・ウジョ
- 3月26日（日） 【ワークショップ】
- 3月27日（月） 【表敬訪問】 ASEAN 事務局 (ASEC)  
                   【報告会／歓送会】
- 3月28日（火） 【視察】 市内視察 ジャカルタ発
- 3月29日（水） 成田空港到着

### 3. プログラム記録写真

	
<p>3/22 【視察】 ODA サイト視察「市民警察活動 (POLMAS) 全国展開プロジェクト」</p>	<p>3/23 【学校交流】 インドネシア大学</p>
<p>【Visit】 ODA site “Project on Nationwide Capacity Development of Police Officers for POLMAS - Indonesian Civilian Police Activities”</p>	<p>【 School Exchange 】 at University of Indonesia</p>
	
<p>3/24 【学校交流】 パジャジャラン大学</p>	<p>3/24-25 【ホームステイ】</p>
<p>【School Exchange】 at University of Padjadjaran</p>	<p>【Homestay】</p>
	
<p>3/27 【表敬訪問】 ASEAN 事務局 (ASEC)</p>	<p>3/27 【報告会／歓送会】</p>
<p>【Courtesy Call】 The ASEAN Secretariat (ASEC)</p>	<p>【Reporting Session】</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 北海道教育大学 札幌校

今回の訪問は初の海外渡航でしたが、日本との違いを多く発見し、日本の良さや派遣国の良さを知ることができました。日本での普段の生活で当たり前だと感じていることが数多くありますが、インドネシアでの階段の段差や椅子の高さ、車の形など、様々な部分で日本との違いを感じ、何故そうになっているのか、背景はどうなっているのかなど、日常の細部に目を向け、その理由を敏感に感じ取ることができるよい機会となりました。派遣前は、インドネシアの街中がすごく混雑していて、規則など殆ど無いのではないかと感じていましたが、人々の間には譲り合いの精神が多く見られ、この点で日本と似ていると感じました。

国際協力の現場として、日本の支援により日本の警察システムを導入して市民のための警察を形成することを目指している ODA サイトを視察しました。ここでは、両者が協力により日本のシステムを参考にしながら現地の人々の特色にあった規則や規定を形成することが大切であることを学びました。今後も日本とインドネシアが協力しながら、このプロジェクトが発展して欲しいと思います。

##### ◆ 北海道教育大学 札幌校

印象に残ったことは、ホームステイをした際に自分が使用しているスマートフォンを見て、「何故アップルを使っているの？アメリカの製品だよ。日本製品を使わないの。」と言われたことです。日本に住んでいると日本製品が優れているという感覚を持つことはあまりないと思います。又、日本人だから日本製品を買うべきだと考える人も少ないと思います。これは、日本人の国民性や歴史が大きく関係していると思いますが、今後は、自分は日本人であるという意識を持って日本の良いものを見つけていこうと思います。

また、日本の警察がインドネシアの ODA 事業で活動していることを全く知らなかったのも、この ODA 視察も印象に残りました。日本では 110 番すれば、警察につながり、すぐに助けに来てくれますが、それを当たり前だと思っていました。しかし、インドネシアも含めて、警察が助けに来るとは限らない国もあることを初めて知りました。日本には当たり前だと思っていたことが、海外では当たり前でないことがたくさんあることに気づきました。私たちは、そのような日本の良い点をアクションプランや SNS を通じて世界に発信していきたいと思います。

##### ◆ 北海道教育大学 旭川校

インドネシアの大学を訪れ、現地学生と交流した際に、彼らが有名な日本の音楽やドラマなど、日本人以上に日本の文化について知っていたので驚きました。スーパーやショッピングモールを見ても、日本食や日本語表記のものが数多くあったことから、日本とインドネシアの繋がりを強く感じました。日本とインドネシアの交流が盛んなのは、お互いに技術・知識や労働力について助け合っており、ウィン・ウィンな関係にあるからというのを日本国大使館での説明を受けて気づきました。日本と比べると、日本の方が優れている部分も多くありましたが、逆に、日本にはないものや足りないものもインドネシアに来て感じる事ができました。これにより、自国の魅力をより深めることができ、日本人の国民性について再度考えることができました。今回の経験を通じて、複数の視点から日本や二国間の関係について考えることが出来ました。今後はこの経験を多くの人に対して、アクションプランや SNS などを通じて発信していきたいと思います。

#### ◆ 北海道教育大学 函館校

このプログラムでの経験により、日本とインドネシアの関わりについて新たに考えることができました。インドネシアでは日本語学習者の数が世界第2位であることや、インドネシアでアニメ、車、食べ物など、日本の関連のものをよく目にする事から、インドネシアの人々は日本をとて好きであることがわかりました。この点を考慮すると、日本はツーリズム産業、特に、インバウンド関係事業に力を入れていくことにより、インドネシアとウィンウインの関係を築くことができると思います。ここで重要な点は、一方的にではなく、インドネシアを尊重し、理解した上で、日本の魅力を発信していくことであると思います。私はこの点に注意しながら、今後も積極的に日本の魅力を発信していきたいと思いません。

### 5. 受入れ側の感想

#### ◆ インドネシア大学

私は北海道教育大学の大学生がインドネシアの文化やインドネシアに関連することについて意欲的に学ぼうとする様子を見て、嬉しくなりました。このプログラムを通じて、私は日本、特に北海道について多くの新しい知識を得ることができました。日本について、当事者から直接話を聞くことができるのはとてもいいですね。一番印象的だったのは、ワークショップで互いの国の踊りを披露し、学ぶワークショップでした。このプログラムを通じ、両国の国民の関係がさらに緊密なものになることを願っています。それだけでなく、このプログラムが、互いの国の文化をより深く知る機会となり、両国の文化保護につながる手段となることを期待しています。

#### ◆ インドネシア大学

このプログラムを通じて日本にある教育大学について知ることができました。日本の教育大学はインドネシアにある教育大学とそれほど変わらないことがわかりました。それだけでなく、日本最大級の祭りの一つである雪まつりについて知識を得ました。日本人学生のプレゼンテーションを聞いて、日本に行って雪まつりを自分の目で見たいという気持ちが大きくなりました。そして、北海道にいる福島からの避難者の様子についても、自分の目で確かめたいと思いました。

#### ◆ パジャジャラン大学

日本の文化についてより多くを知ることができました。またインドネシアの文化を彼らに紹介することもできました。方言や食べ物など、日本も地方によって違いがあることを知りました。また、日本の伝統的な踊りを教えてもらう機会があり、楽しかったです。この交流プログラムを通じ、日本についてさらに深く学び、またインドネシアの文化を日本人に紹介できることを願っています。

## 6. 参加者の対外発信

	
<p>【大使館と ODA サイト訪問についての発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・午前、大使館訪問。インドネシアと日本の間には強いつながりがあることを知った。</li> <li>・午後、地元の警察署を訪問。日本の駐在所制度が取り入れられていることを知った。</li> </ul>	<p>【インドネシア大学での学校交流についての発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素晴らしい日だった！！</li> <li>・お互いに自分たちの国の文化を紹介。とても楽しかった。</li> </ul>
<p>【Theme: Courtesy Call to Embassy of Japan and Visit to ODA site】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Courtesy Call to Embassy of Japan in the morning. We learned a strong relation between Indonesia and Japan.</li> <li>・ Visit to ODA site. We learned Japan's residential police system is being introduced to Indonesia.</li> </ul>	<p>【Theme: School Exchange Program with University of Indonesia】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ We had a great day!</li> <li>・ We introduced our culture each other. We enjoyed a lot.</li> </ul>

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	<p>1.Information dispatch of JAPAN</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Make a PDF and use SNS</li> <li>•Make paper medias.</li> </ul> 
<p>【アクションプランの発表 旭川校】</p> <p>日本の遊び、歌、お握りの作り方などを YouTube にアップロード。</p>	<p>【アクションプランの発表 函館校】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日本の魅力を PDF にして、SNS で発信。</li> <li>②フリーペーパーを作成、交流大学に送付。</li> </ol>
<p>【Action Plan by Asahikawa Campus】</p> <p>To upload Japan's attractions on YouTube, including traditional plays, songs, how to make rice balls, etc.</p>	<p>【Action Plan by Hakodate Campus】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①To advertise Japan's attractions through SNS</li> <li>②To make free newspaper and send it to the two universities</li> </ol>